

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	阿倍野区
学 校 名	常盤小学校
学校長名	村上 昌志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 234名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語・算数の平均正答率は、以下のとおりとなった。（　）は全国平均・大阪市平均との差。
国語：68ポイント（全国平均+2.4ポイント、大阪市平均+4ポイント）
算数：66ポイント（　〃 +2.8ポイント、　〃 +4ポイント）
理科：63ポイント（　〃 -0.3ポイント、　〃 +3ポイント）
- 平均無回答率は、国語で3.9ポイント、算数で3.2ポイント、理科で4.0ポイントとなった。国語・算数は全国平均および大阪市平均より良好な値であったが、理科については、全国平均および大阪市平均をわずかながら下回る（無回答率が高い）結果となった。
- 各テストの正答率別児童分布は、正答率8割以上の分布状況は全国平均を上回っているものの、正答率2～3割にも全国平均と同等の分布が見られるなど、学力の二極化現象が見られる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕領域別の正答率をみると、「読むこと」については全国平均・大阪市平均を上回っているものの、「話すこと・聞くこと」は全国平均を下回り、「書くこと」については、全国平均・大阪市平均を下回る結果となった。特に「書くこと」についての学びには依然として課題があると考える。

〔算数〕領域別の正答率をみると、すべての領域において全国平均・大阪市平均を上回っている。ただ、昨年度の結果と比較すると、いずれの領域も全国平均・大阪市平均との差が小さくなっている。

〔理科〕領域別の正答率をみると、「エネルギー」を柱とする領域と「生命」を柱とする領域は全国平均・大阪市平均を上回っているものの、「粒子」を柱とする領域と「地球」を柱とする領域は全国平均を下回る結果となった。

質問紙調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は85.7ポイントで、前回調査を上回り、全国平均も上回る結果となった。（H31：80.1ポイント、R3：82.2ポイント）授業の中で互いを認める場を設けたり、子どもたち一人ひとりが活躍できる場を設定したりするなど、それぞれの学年、それぞれのクラスで子どもたちの自己有用感を高められる取り組みを工夫して行っていることが、一定の効果をもたらしていると考える。ただ、否定的回答の児童も一定数いることから、その子たちが自分の良さに気づくことができるような取り組み、働きかけを今後も考えながら取り組んでいきたい。自尊感情の育成は、本校の課題として継続的に取り組んでいく。

今後の取組(アクションプラン)

- 主体的・対話的で深い学びの推進
児童自らが課題を見出し、自ら進んで解決策を考えたり、友だちと学び合う中で解決策を見出したりする学習を通じて、知識を活用して課題に対応したり生活に生かしたりする姿勢を育む学びを展開していく。そのために、各教科や課題に応じた授業展開ができるように授業の充実を図る。また、タブレット端末を効果的に活用することで、個に応じた学びに向けて取り組みを進める。
- 読書習慣の育成
学校図書館の全日開館、読み聞かせ活動、読書週間の取り組み等を通じて、読書に親しむ姿勢を育てる。
- 学習内容を定着させるための取り組み
特に国語と算数について、習熟に差がある児童への支援についてや、授業で使用するドリルやプリント、宿題の量や出し方について等、学習内容を定着させるための方策を校内で意見交流したり研修したりすることで、今後の学習指導に活かしていく。

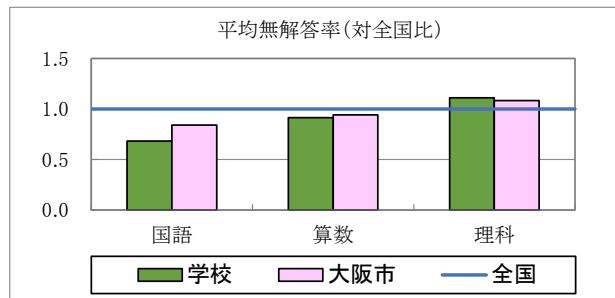
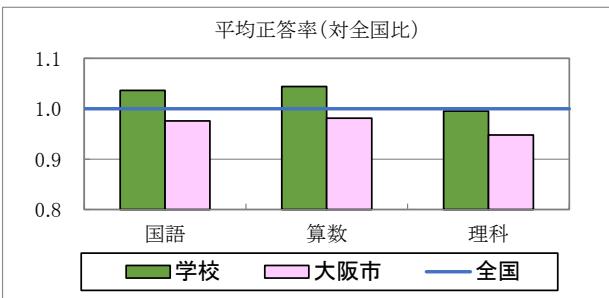
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	68.0	66.0	63.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	3.9	3.2	4.0
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6



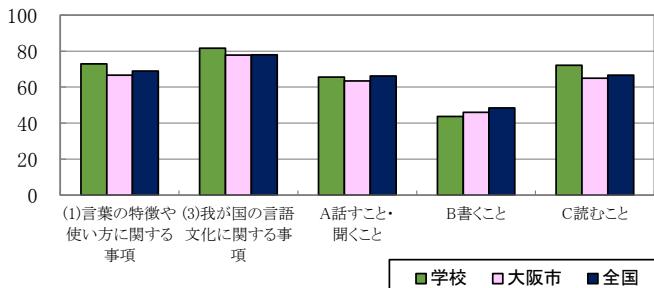
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	72.9	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語 文化に関する事項	1	81.7	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	65.5	63.4	66.2
B 書くこと	2	43.7	46.0	48.5
C 読むこと	4	72.1	65.0	66.6

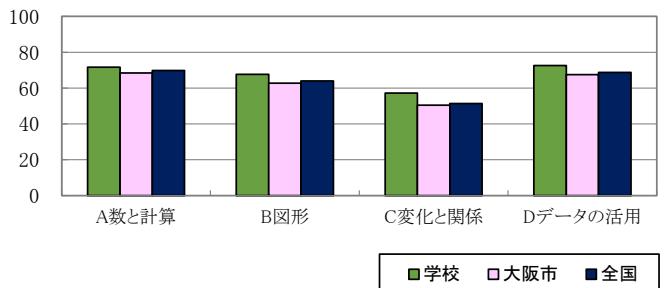
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	71.7	68.4	69.8
B 図形	4	67.6	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	57.2	50.5	51.3
D データの活用	3	72.6	67.5	68.7

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

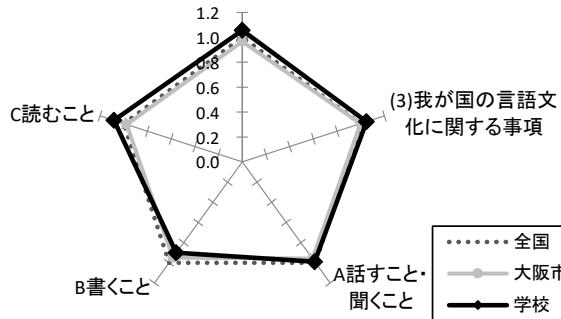


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



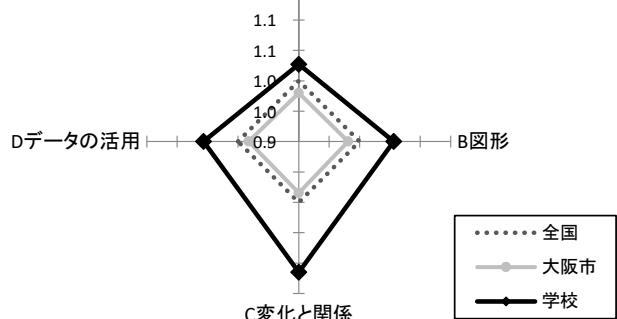
国語 領域別正答率(対全国比)

(1)言葉の特徴や使
い方に関する事項



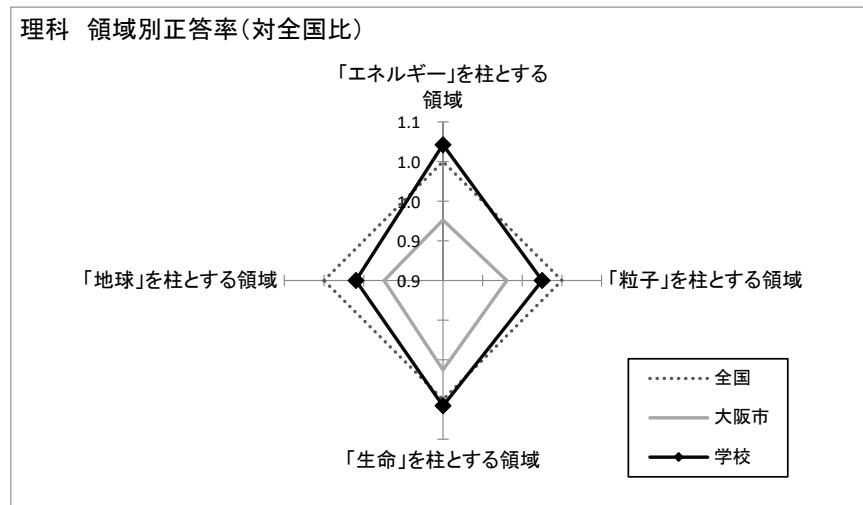
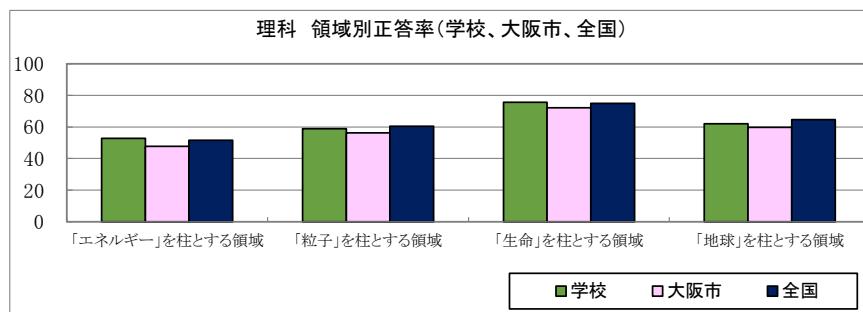
算数 領域別正答率(対全国比)

A数と計算
B図形
C変化と関係



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	52.7	47.8	51.6
	「粒子」を 柱とする領域	5	58.9	56.2	60.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	5	75.6	72.2	75.0
	「地球」を 柱とする領域	5	62.0	59.7	64.6



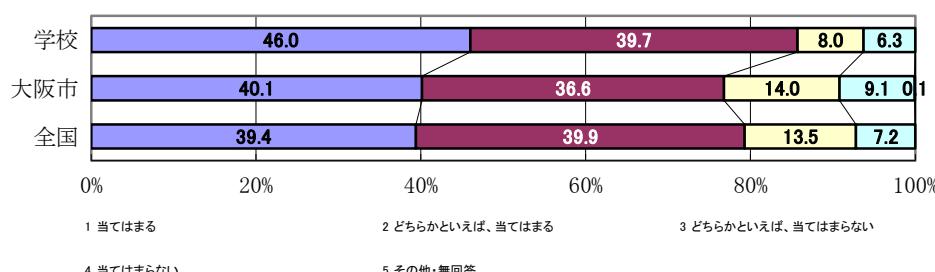
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

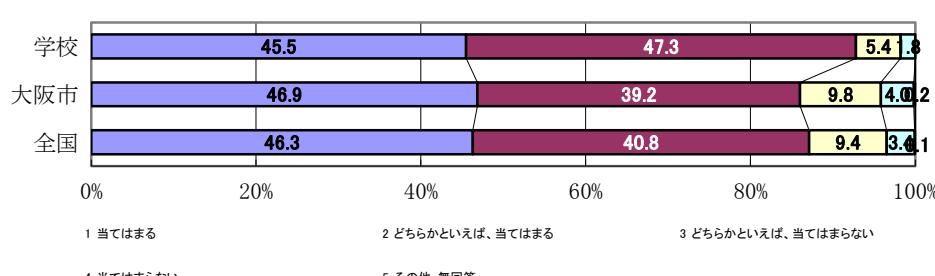
7

自分には、よいところがあると思いますか



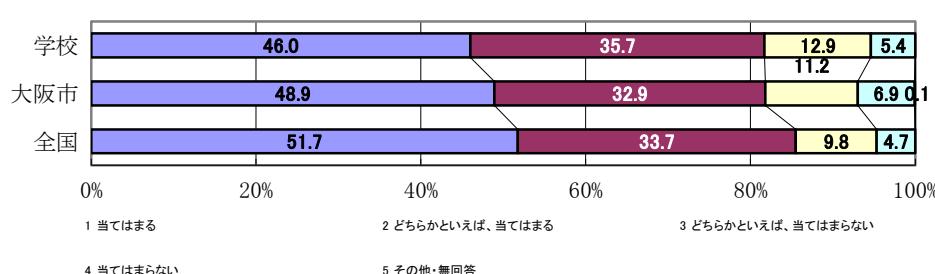
8

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



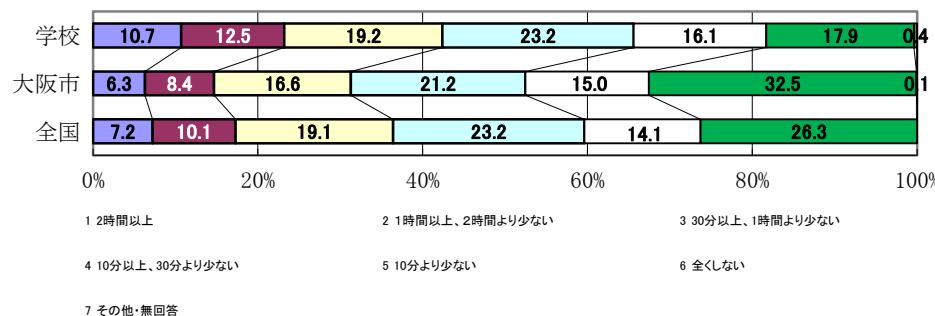
16

学校に行くのは楽しいと思いませんか



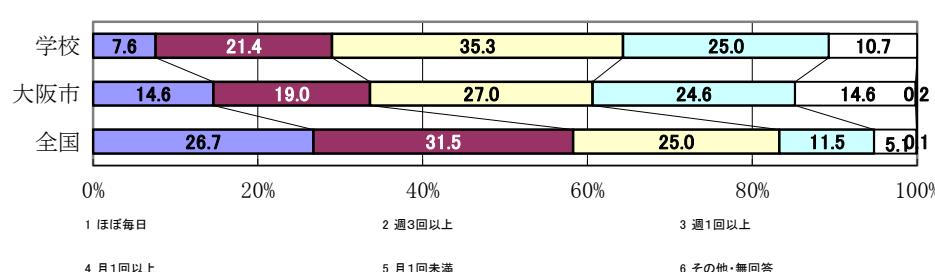
23

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



32

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



学校質問紙より

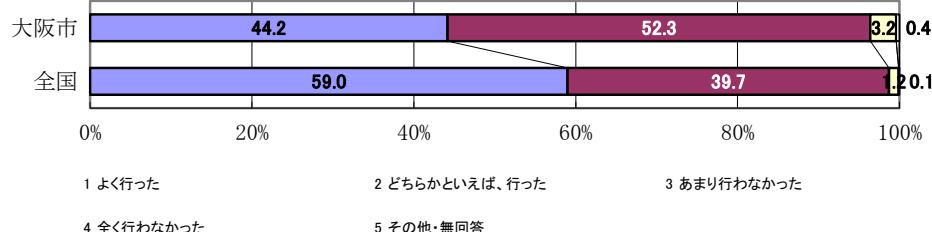
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか

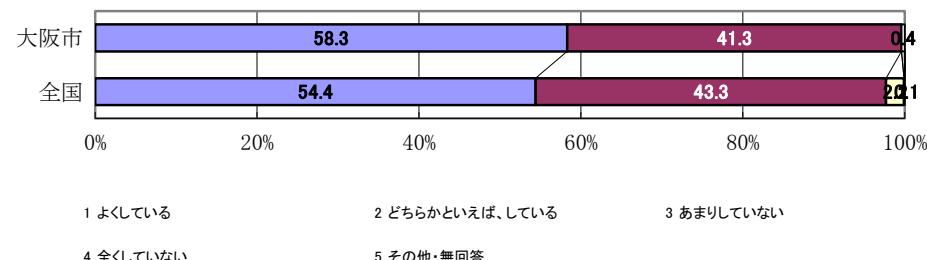
学校 「よく行った」を選択



19

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

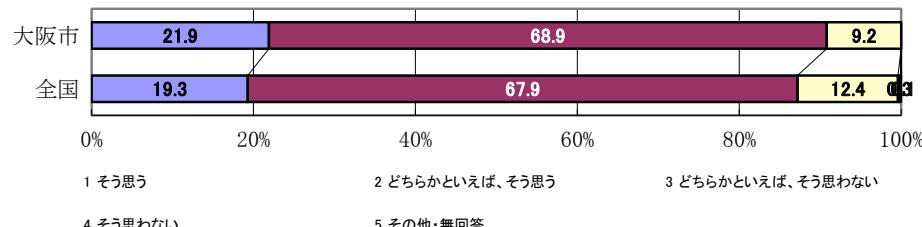
学校 「よくしている」を選択



23

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

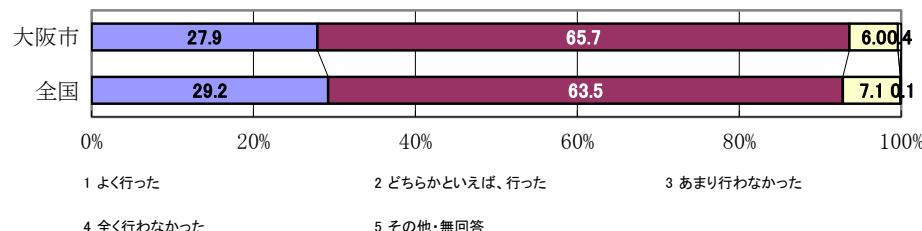
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



41

調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考え方とそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



59

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「週3回以上」を選択

